

記 事

◎第5回理事会（昭.26.10.12）出席者：大西会長、稻浦、立花両副会長、樺島、高畠、富樫、仁杉、本間、丸安、米元の各理事、協議事項：（1）日本学術会議第11回総会の模様は稻浦副会長に一任、（2）中国四国支部第3回学術講演会には稻浦副会長が出席すること。（3）最新土質工学の残部僅少となつたが、これが再版は土質基礎工学委員会と協議の上決定すること。（4）学会事務所増築は大体10月末竣工の予定、その頃委員会開催のこと。（5）Ford Foundation の Fundsによる米国留学者推薦方学術会議からの照会に対し、各支部に連絡の上 10月 31 日までに学術会議へ提出すること。（6）地辻対策委員会について仁杉理事から主旨の説明あり、同委員会を設置することとし、委員長に沼田政矩、委員に最上武雄、星埜和、福岡正己、植物学者（未定）幹事として宮崎政三、原口正二、高橋好郎の諸氏を内定し、最近の内に打合會を行うこと。（7）製図規格委員会について本間理事から主旨を説明、土木部門としてまとまつた標準がないから規格を制定する必要があり、学会内に同委員会を設置することに決定し調査部理事で計画すること。（8）26年度土木賞委員会委員は大体において前年度委員を御願いするが本人の意向を伺うこと、各支部からは更めて推薦して貰うこと。各理事次回までに考えておくこと。（9）明年米国工業百年祭に提出論文の準備について ASCE に問合せること。（10）福井県を関西地区に変更方大塩政治郎氏が代表して申出があつたが中部、関西両支部長から意見を具陳して貰つて常議員会で決定のこと。（11）中部支部から配賦金増額申出に対しては目下研究中である。（12）北海道支部では規定を本部の承認を経ずして改正しているがこれは本部としては認められない。折を見て注意すること。（13）会員入退会承認。

◎編集委員会（昭.26.10.19）出席者：本間、米元正副委員長外各委員及び小西（石原代）地方委員、協議事項：（1）論文審査報告及び新原稿審査委員の決定、（2）第36巻第12号登載論文下記の通り決定した。

成岡昌夫・米沢博：鋼道路橋の鉄筋コンクリート連続版の曲げモーメントについて（1）、杉尾捨三郎：水門を有する湖沼の水位推算について、丸安隆和：地上写真の図化方法と地籍測量への利用性について、神山一：鉄筋コンクリートばかりの曲げ降伏特性について、岡本伝夫：道路及び河川の地域配分の研究、水野高明：セメント圧縮強度とコンクリート圧縮強度との関係に

ついて、大野諱：曲梁の歪エネルギーに対する公式。

（3）原稿依頼先その他編集事項の協議。

◎サベージ博士講演会並びに Tea party（昭.26.10.4）

John L. Savage 博士は予定通り 9月 30 日来朝せられ 10月 4日午後 2時から日本工業クラブ大講堂で歓迎講演会を開催した。定刻までに殆んど満員に近い状態で、同博士が会場に現われるや拍手を以つてこれを迎え、高畠理事司会のもとに開会された。先ず大西会長開会の辞をかねて次のような挨拶を行つた。

今回アメリカ土木学会の名誉会員であり、ダム技術の世界の第一人者であるサベージ博士が去る 9月 30 日御来訪になりました。その目的は日本のダム技術の御指導を得るために印度からの御帰途御立寄を願つたのであります。特に日米両国の技術者に会つて両国の

写真一 講 演 会 場



技術的親善をはかりたいと言うことであります。非常に御多忙な御旅行にも拘らず御来訪下さいましたことを我々は感謝する所であります。そこで土木学会は本日講演会を催すことを御願いしましたところ御快諾下さいました次第であります。

皆様の御手許に英文コピーパーを差上げましたが、博士の優れた御経験を述べるに要を得たものと思われますが、このあらましを読み上げまして御紹介のことばに代えます。

サベージ博士略歴

サベージ博士は多年米国の Bureau of Reclamation の主任設計技師で、従つてその在任中 Bureau が建設した総てのダムの研究及び設計に対しての責任者であつた。その内最も有名なものは、アリゾナ及びネバダ両州の間のコロラド河に於ける フーバーダムと加州におけるサクラメント河のシャスタダムである。同博士は政府の仕事を 1945 年に退いてから顧問技師の実務に当られ現在印度地方各國政府、南米、南

亞、カナダ等の諸政府その他各方面の顧問として活躍せられています。又同博士は諸外国に対する技術的知識と熟練の条款に関するトルーマン大統領の諮問委員会委員であり、又かつて国際大ダム会議の副議長であつた。又 National Academy of Sciences, American Society for Testing Materials, Colorado Society of Engineers, American Concrete Institute 及び英国土木学会等の会員である。

かくの如く同博士は当代世界が有する著名な大技術者であります。なおこの貴重な御講演をできるだけ正確にその真意を皆さんに御諒解頂くために特に建設省大臣官房涉外課細矢義雄氏に通訳の芳をとつて頂くことに致しました。ではこれから御講演を御静聴願います。

会長の挨拶に続いて、白髪童顔のサベージ博士が登壇し約1時間にわたり巻頭所載のような大きなダムの設計を実例について講演され、満堂の聴衆に深い技術的感激を与えた。

講演終了後再び大西会長から次のような謝辞があり有意義の中に講演会を閉じた。

講演謝辞

唯今は大きなダムの設計について誠に有益な御話を承りまして、われわれに非常に大きな感銘を与えられました。この御話からも今後我国土木技術界の進歩発達のために博士並びに貴国の御指導と御援助を賜るように切に御願い申し上げます。

本年2月 ASCE の会長 Gail A. Hathaway 氏が御来訪になりましたとき「度この会場で御講演を願つたのであります、その節も貴国の土木学会と日本の土木学会との御交誼を御願い致しましたが、一步進んで今回は個々の技術について御指導を願う第一歩に同博士の有益な御講演と建設省や東京都や中部電力の懇請を御快諾下さいまして該博な御造詣を傾けて頂くことは誠に感謝に堪えない次第であります。又今まで日本の技術者が貴国を訪ねて各方面で懇切に御指導を得たとの報告を受けていますが、今後多くの技術者が貴

写真-2 Tea Party

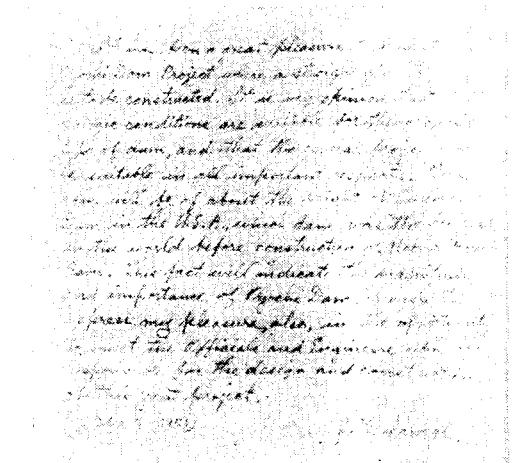


国に参ることと存じますが宜しく御指導を御願い致します。最後に博士の御健康を御祈りして御の言葉と致します。

講演会に引き続きテーパーテーを同クラブ3階大食堂で開催した。同博士を囲み土木界の古老新锐約50名が一堂に会し、ビールの満引き日米技術界の親善のひとときを過し、大西会長から記念品を贈呈し、最後に同博士の健康を拍手を以つて祝福し午後4時30分頃散会した。

なお同博士は10月2, 3両日建設省主催の技術懇談会でダムの設計施工に関する質疑に対し、懇切な応答があり、5, 6両日には東京都小河内貯水池ダムの

写真-3



現地を視察しこれに対して有益な示唆を与え、引続いて中部電力KKの天龍川佐久間ダム建設予定地を視察し、これ又該博な蘊蓄を傾けられそれぞれ即答のできないものは帰米後資料によつて研究の上回答することを約されて、9日羽田空港帰米の途につかれた。約10日間の滞日中殆んど休養の時間もない御活躍振りであつた。こゝに我技術界を代表して同博士に深甚の感謝と敬意を表する次第である。

○その他

(1) 灌溉及び排水国内委員会について(安芸博士から連絡 10.15)

International Commission on Irrigation and Drainage に対する Japanese National Commission Irrigation and Drainage を政府機関の1つとして設置することに去る8月24日閣議で決定し、農林省内に事務局を設け土木学会、農業土木学会、建設省安定本部及び農林省の5分野から夫々同等資格の理事(委員)を選出し運営することになつた(第10号記事参照)何れ近い内に委員推薦方照会がある筈、なお

Centennial of Engineering 1952 Convocation (明年9月 Chicago で開催) の際に第3回国際委員会を開催するので出来るだけ早く代表を推薦して呉れと同委員会中央事務局の General Secretary から安芸博士宛に照会があつた由、予算面上の出席者は2名となつてゐるが実際は今後の接衝によるものと思われる。

(2) 日本工学会臨時総会 (10.16 本間理事出席)

協議事項: (1) 会費改正の件、承認。(2) 定款改正 (イ) 基本財産の処分は一部に限ること、(ロ) 解散の場合の処置を新たに設けること、(ハ) 役員数の最少限を明記すること、(理事は5名以上7名以内、監事は2名)

支部だより

I. 東北支部 (1) 第1回技術研究会 (昭.26.10.)

19~20 東北大学(旧工専講堂)において開催、照井支部長、伊藤常議員(地建局長)他支部役員、来賓として元仙台工専校長鶴見一之氏、土木研究所所長松村孫治氏等をはじめ会員の参会者200名に達した。先ず青柳幹事長の開会の辞に続いて次の次第の通り、河川、道路、ダム等の計画設計、施工実施報告、理論、施工面の技術的研究等貴重な研究発表が13名の会員によつて行われ、特に山本三郎氏、片平信貴氏の特別講演が注目をひき盛況のうちに18時閉会した。なお今回は第1回の試みであり、特に東北地建第3回技術研究会と共同主催としたことを附記する。

(研究発表)

敷石橋における1, 2の施工方法について

(東北地建) 山名 英夫

×橋の強度について (宮城県道路課) 多田 安夫

凍土の掘削法 (東北大学) 原田 千三

沼沢沼揚水発電所建設工事について

(東北電力) 後藤 壮介

東北大学土木工学科の現状 (東北大学) 鷲尾 肇龍

ドラックスクレーバーによる浚渫工事

(塩金港工事) 武 秀雄

最高水位と最大流量 (北上川下流工事) 井部 勇一

広瀬川の仙台市内における洪水対策

(宮城県河港課) 井沢 健二

吉田川伏越継足工事について

(江合鳴瀬両川工事) 斎藤 健

石淵ダム建設工事の現況 (胆沢工事) 富所 強哉

田瀬ダムセメント受入設備について

(猿ヶ石工事) 坂西徳太郎

ダム式貯水池の洪水調節機構について

(宮城県河港課) 酒井 利広

ダム流堤頂におけるコントロールセクション

と溢流係数について (東北大学) 岩崎 敏夫

(特別講演)

アメリカの道路及び土砂安定工法

(建設省道路局) 片平 信貴

アメリカの河川 (建設省河川局) 山本 三郎

(2) エキスカーション (昭.26.10.27~28 両日)

昭和26年度秋季エキスカーションを挙行した。参加者38名、27日大曲駅前に集合会員に対し池田秋田県知事の御挨拶があり、9時予定通り自動車に分乗出発し、途中武田東北電力夏瀬建設所長の案内で万山紅葉を賞しつゝ一路田沢湖畔玉川注水口に向つた。同所においては照井支部長の挨拶があり、次で庄司秋田県土木部長の田沢湖を中心としての開発計画についての説明、武田所長の発電工事についての概説、三浦東北地建湯沢工事務所長により鎧畠ダム調査に関する説明を聴き、小憩後出発途中生保内発電所、夏瀬発電建設工事の現場を視察、宿舎湯田村和賀旅館に到着したのは約20時であつた。同夜は照井支部長が用務の都合で帰られたが、宿舎には岩手県土木部長の代理として及川黒沢尻土木事務所長が会員の慰問に来られ、且つ秋田県知事からの特段の御配意により盛大な懇親の晩餐が開かれた。28日9時宿舎出発仙人ダム地点視察、長谷川東北地建和賀川調査出張所長の説明を聴き和賀川の仙峠を通過12時東北地建胆沢工事事務所に到着昼食後川瀬事務所長より石淵ダム工事(ロックフィルダム)について説明、現場視察の上予定通り水沢駅着解散した。

(3) 懇親会 (昭.26.11.1) 大西土木学会会長の来仙を機として、東北地建内で懇談午餐会を開催した。出席者は在仙役員14名

II. 中部支部: 総会 (昭.26.10.17~18 両日) 金沢市において開催された。大西会長が出席し、予定通り非常に盛会であつた。

(次頁大会報告参照)

III. 関西支部: 第4回関西工学連合講演会 (昭.26.10.13~14 両日) 神戸大学において、題目及び講演者は第9号参照) 本講演会は2会場に分れ全講演44篇、

聴講者 13日 第1会場約50名 第2会場 約60名

14日 第1会場約40名 第2会場 約50名

特別講演約300名

なお第5回(明年秋)は土木学会関西支部斡旋により京都大学で開催の予定

IV. 中国四国支部: 講演会 (昭.26.10.21~22 両日、広島大学において) 稲浦副会長出席の予定であつたが御不幸のため出席されず、他の理事も差支えがあつて出席できなかつたことは遺憾であつた。(44頁参照)

V. 西部支部 見学旅行会 (昭.26.10.20)

門司毎日ホール 映画: 最新ニュース

" 講演: 米国の道路について

福岡県高木道路課長

関門国道門司出張所 関門トンネルについて

九州地建

見学：和布刈神社、関門国道トンネル、
関、門、若、倉の各港湾

九頭龍橋工事について 福井県庁 中村 喜作

A Eコンクリートについて

中部電力 彦坂 六男

五条川発電所建設について

北陸電力 和沢 清吉

隧道裏込注入について

国鉄金沢管理局 坂本 貞雄

新御影橋について 金沢市役所 鈴木 邦彦

用水路乱流の温度変化 金沢大学 高 敏郎

宮川総合開発について 三重県庁 山口 秀男

格子構造の解法について

岐阜市立工業高校 星 治雄

鹿乗橋工事について 愛知県庁 清水 保

北陸三県（富山、石川、福井）産の骨材に

について 金沢大学 永井 時一

懇親会 大会終了後湯涌温泉で懇親会を行う。参加者151名

見学会 18日 東日本重工七尾工場にてプレストレスコンクリートの強度試験、枕木製造等を見学更に盤城モメント七尾工場を見学して和倉温泉で昼食後解散。参加者170名

中部支部大会報告

1. 期日及び時間 10月17日午前10時～午後7時

2. 場所 金沢市金沢大学工学部講堂

3. 出席者数 約250名

4. 会次第

開会の辞 石川県土木部砂防課長

支部長挨拶

学長挨拶

25, 26年度会務報告 奥田幹事長

25年度行事 評議員会3回、幹事会1回 講演会6

回、見学会3回 支部大会1回

25年度決算

26年度行事（4月～9月）幹事会6回 役員会1回

見学会4回 講演会2回

26年度経費

富山、石川、福井3県土木部長挨拶

学術講演

摩擦抵抗の支持力の一計算法

金沢大学 西田 義親

昭和26年10月分入退会報告 (10.1~10.31現在)

1. 入会 116名（特別員17、正員29名、准員50、学生員28）

2. 転格 26名（准員より正員へ22、学生員より准員へ4）

3. 退会 32名（正員8、准員17、学生員7）

会員現在数 (10.31現在)

名譽員	賛助員	特別員	正員	准員	学生員	合計	増加数
16	13	207	4408	4922	1016	10582	84

昭和26年11月25日印刷 土木学会誌 定価 80円

昭和26年11月30日発行 第36巻第11号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町2丁目4番地 中川 一 美

印刷者 東京都港区溜池町5番地 大沼 正 吉

印刷所 東京都港区溜池町5番地 株式会社技報堂

東京都中央局区内千代田区大手町2丁目4番地 電話和田倉(20)3945番

発行所 法人土木学会 振替東京16828番